

## 益田市指定史跡 横山城跡に関する古文書について

益田市指定史跡 横山城跡についての、従来知られていなかった古文書が、益田市教育委員会文化財課の中司健一主任が研究代表を務める2018年度東京大学史料編纂所一般共同研究「中世石見国高津川流域の史料調査と研究」の調査により、山口県防府市の毛利博物館が所蔵する文書群の中にあることが新たに確認されました。

文化財課にて取材対応いたしますので、ぜひ取材下さいますよう、ご案内いたします。

### 1. 横山城跡について

益田市の桂平町と柏原町にまたがる、海拔 350m の山頂に築かれており、本丸と東側の二の丸との間に堀切がいくつも設けられるなど、防御の固い山城跡です。

築城年代ははっきりしませんが、南北朝時代の古文書に見える黒谷城がこの城のことと推測され、南朝方の高津長幸の一族が籠もっていた黒谷城を北朝方が攻略しています。

室町時代に入ると、現在の益田市域の領主・益田氏と津和野町域の領主・吉見氏の両勢力の中間にあることから、争奪の対象となりました。これまで、天文 20 (1551) 年に益田氏の城として俣賀氏・安富氏・高津氏らが防御を固めていたこと（「俣賀文書」）、弘治 2 (1556) 年に吉見氏が攻略に成功して城督の和田中務少輔が生け捕りにされたこと（「閔閔録」）がわかっていました。

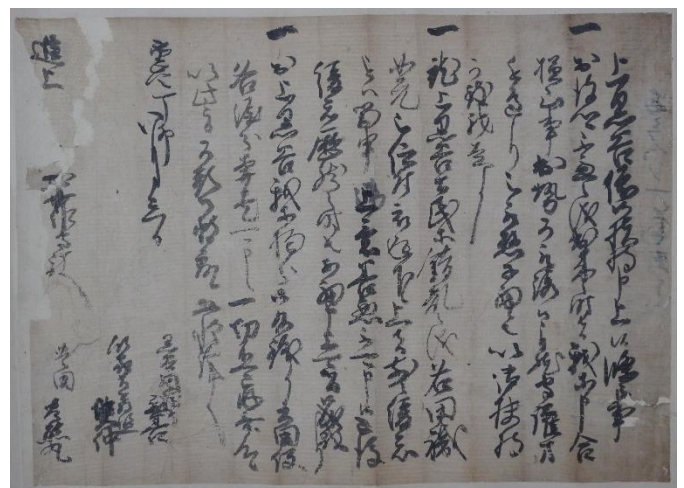
地域のシンボルの一つとして、地元の皆さんによる整備が行われています。

### 2. 今回確認された古文書

毛利博物館が所蔵する古文書の中にありました。『山口県史』史料編中世 2 に毛利家旧蔵「諸家文書」の 4 号として収録されており、永正 4 (1507) 年に豊田豊熊丸・領家双仲・黒谷至善の三名が某美作守に宛てた文書の写です。宛先の名字の個所は破れており不明ですが、益田氏の一族か吉見氏の一族と推測されます。

従来は、前後に小早川氏関係の古文書があったことなどから小早川氏関係文書と考えられていましたが、このたびの調査で、中世の益田に関する文書であることが確認されました。

内容は、豊田氏ら三氏が、某美作守から上黒谷で領地をもらったことに感謝し、上黒谷で不慮の事態が起こったときは横山城で防御を固めること、地域の民衆の混乱については鎮めること、税や役目はきちんと納め務めることなどを約束したものです。この直前に上黒谷の支配者が替わったことが推測されます。



豊田豊熊丸外二名連署言上状案（毛利博物館蔵毛

利家旧蔵文書・諸家文書4号）△山口県史2

〔複製書〕  
「両三人ノ一筆案文」

上黒谷御扶持申上候条々事、

一於彼郷不慮之儀出来之時者、我等申合、横山事出勢可取誘候、自然守護方近辺より被取懸子細候者、以御扶持可致馳走候事、

一就上黒谷土民等錯乱之儀、名田職如元被仰付被返下候上者、前々緩怠をハ留申、<sup>上</sup>御意善悪不可申候、

已後緩怠歴然之時者、子細申上可有御成敗事、

一於上黒谷我拘分御反錢事、公田役各遅分奔走可申候、

一切不可存無沙汰候、以此旨可預御披露候、恐惶謹言、

永正四丁卯  
八月三日

黒谷因權守  
至善

領家右近将監  
仲

豊田  
豊熊丸

進上 一 一 美作守殿

豊田氏は横田町あたりの領主であり、黒谷氏は上黒谷町や黒周町のあたりを領地としていたと考えられ、特に黒谷至善<sup>（カ）</sup>は、永正14（1517）年に本願主として上黒谷八幡宮を再建したと記録に残る「黒谷周防守藤原満善<sup>（カ）</sup>」との関係がうかがわれ、興味深いところだ。

この古文書が横山城跡に関するものであると確認されたことにより、あらためて横山城がこの地域の中核的な拠点であったこと、地域の人々にとってその防御を固めることが役目であったことなどがわかりました。横山城跡の位置づけを考える上で、たいへん貴重な資料と言えます。

### 3. 毛利博物館について

もと長州藩主・公爵毛利家の邸宅として大正5（1916）年に完成した毛利邸の一部を博物館として使用し、鎌倉時代以来の名門毛利家の貴重な美術品や歴史資料約2万点を収蔵・展示しています。国宝4件7点、重要文化財約9千点を所蔵する西日本有数の博物館です。

### 4. 2018年度東京大学史料編纂所一般共同研究「中世石見国高津川流域の史料調査と研究」について

別添資料を参照下さい。

## 2018 年度一般共同研究実施計画書

1. 申請課題名 中世石見国高津川流域の史料調査と研究
2. 所外共同研究員 氏名(所属・職名) (研究代表者に○をつけてください) 目次謙一(島根県立古代出雲歴史博物館 学芸情報課 専門学芸員) 小杉紗友美(津和野町教育委員会 文化財係 主任学芸員) 倉恒康一(島根県古代文化センター 主任研究員) 長村祥知(京都府京都文化博物館 学芸課 学芸員) 角野広海(島根県立石見美術館 学芸員) ○中司健一(益田市教育委員会文化財課歴史文化研究センター 主任)
3. 所内共同研究者 氏名(所属部門・職名) (所内担当者に△をつけてください) △西田友広(東京大学史料編纂所 中世史料部 助教)
4. 課題の概要(400 字程度) (この項は広報等に利用・掲載することがあります) 本共同研究は、中世石見国高津川流域(島根県益田市西部、津和野町、吉賀町)の政治、流通・経済、文化などの実態解明を進めることを第一の目的とし、第二の目的として第一の目的を達成するために、これまで十分に進んでいない同地域の史料の調査と研究に取り組み、その研究資源化を実施する。具体的には、この地域の国人である益田氏と吉見氏、中小領主である内田氏・俣賀氏・安富氏、また長野荘等、この地域に展開した荘園等の関係資料を蒐集・調査・研究し、その成果を発表することで研究資源化する。 また、近年、目覚ましく進んでいる周辺地域(大内氏領国、毛利氏領国、益田氏をはじめとする御神本一族とその支配領域)についての研究成果や、隣接分野である考古学・美術史学の成果を積極的に取り入れる。
5. 研究の目的(400 字程度) 2014～2016 年度の東京大学史料編纂所・島根県古代文化センター・益田市歴史文化研究センター共同研究「石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界」とこれに関連する東京大学史料編纂所一般共同研究により、近年、石見西部の中世文書の調査・研究が目覚ましく進み、その成果は各史料紹介や『中世益田・益田氏関係史料集』(2016 年刊行)、2017 年に島根県立石見美術館で開催された「石見の戦国武将」展という形で結実した。 しかし、これらの共同研究は益田氏やその同族である三隅氏・周布氏・福屋氏など、いわゆる御神本一族を主な対象としていたこともあり、中世の石見西部で大きな勢力を保持し、益田氏と競合関係にあった吉見氏やその勢力圏であった津和野町・吉賀町域の中世史料の調査や研究が不十分であるという課題が残った。 一方、国立歴史民俗博物館の共同研究「中世日本の地域社会における武家領主支配の研究」が益田市域、特に当初は高津川下流域を主な対象地域としたことで、同地域の中世の在地社会の実態解明が大幅に進んでいる。 本研究は、こうした研究状況を踏まえ、これらの共同研究を補完し、より研究を進めるため、上・中流域を含む中世の高津川流域全体の実態解明を進め、同地域に関わる史料を調査・研究し、研究資源化を進める。

## 6. 共同利用・共同研究として進める意義と期待される研究成果(400 字程度)

中世の高津川流域の研究を進める上で、東京大学史料編纂所が所蔵する「益田家文書」は必要不可欠な文献であり、また中世高津川流域の研究が進むことは、「益田家文書」の研究にとっても大きく寄与することになると思われる。

また、同地域の史料調査はこれまであまりなされておらず、その手がかりとして東京大学史料編纂所が所蔵する影写本や謄写本はたいへん貴重である。一方、現時点で原本の所在が不明となっている古文書の所在を確認し、研究資源化する上で、当該市町の文化財担当者の協力は必要不可欠である。

## 7. 研究の実施計画

5月 益田市での打ち合わせ及び、益田市・津和野町での現地調査

6～10月 史料編纂所での影写本等調査、島根県立図書館での影写本等調査、山口県文書館での譜録等の調査、毛利博物館での文書調査、津和野町での文書調査（永明寺、鷺原八幡宮など3～4回）

11月 京都府京都文化博物館での大島本源氏物語の調査および協議等

## 8. 研究成果の公開計画

共同研究の構成員による論文・史料紹介等による研究成果の公開のほか、平成31年度に益田市または津和野町での共同研究の成果報告会としてのシンポジウムを開催する。

また、将来的には、この地域の中世史料集の刊行や、この共同研究の成果を活かした企画展の開催も検討したい。

## 9. 研究の必要経費（なるべく7との対応関係がわかるように記載してください）

（合計）496,220 円

## 【旅費】

- ・益田市での協議（松江↔益田、日帰り：11,840 円。津和野↔益田、日帰り：3,960 円。京都↔益田、2泊3日：57,160 円。東京↔益田、2泊3日：98,960 円）＝174,080 円
- ・史料編纂所での影写本等調査（益田↔東京、2泊3日）70,480 円
- ・島根県立図書館での影写本等調査（益田↔松江、1泊2日）28,400 円
- ・山口県文書館での譜録等の調査（益田↔山口、日帰り）7,940 円
- ・毛利博物館での文書調査（益田↔防府、日帰り）9,500 円
- ・津和野町での文書調査（益田↔津和野、日帰り：3,960 円）×6回＝23,760 円
- ・京都府京都文化博物館での大島本源氏物語の調査および協議等（益田↔京都、1泊2日：48,880 円×3人。東京↔京都、1泊2日：43,160 円）

（記入欄は適宜行数を増減して記入して結構ですが、2頁に収めてください。）